

第9回 札幌イノベーションセミナー  
「より安心して暮らせる社会へ」  
～ともに支え合う介護・福祉の実現に向けて～  
実施報告（抄）

開催日：2018年10月26日（金）13:30～16:10

場 所：札幌市産業振興センター セミナールームA

主 催：一般社団法人「民間事業者の質を高める」全国介護事業者協議会、  
一般財団法人さっぽろ産業振興財団

共 催：札幌市IoTイノベーション推進コンソーシアム

後 援：札幌市、特定非営利活動法人ITコーディネータ協会、北海道ITコーディネータ協議会

参加者：64社90名

プログラムと内容概略（以下、敬称略）

<司会>



札幌学院大学 客員教授／札幌市IoTイノベーション推進コンソーシアム

ICT活用普及促進部会 世話人 赤羽 幸雄

1 主催者挨拶



一般財団法人さっぽろ産業振興財団 専務理事 酒井 裕司

## 2 【基調講演】「介護・福祉業界のIT 利活用と異業種連携への展望」



日経 BP 社 日経デジタルヘルス 編集長 小谷 卓也

- 今起きているパラダイムシフト
  - ・医療における世界レベルの社会課題
    - 新たな医療システムの構築
    - イノベーションで課題に対抗する
  - ・ソーシャルホスピタルという考え方
    - 連携やサービスの多様化
    - 地域包括ケア=ソーシャルホスピタル
    - 具現化するには、社会に参加する人すべてがプレーヤーになる必要がある
- 異分野融合と異業種連携の重要性
  - ・多種多様なプレーヤー必要性
    - イノベーションは技術革新とイコールではない
    - 枯れた技術であっても「技術の捉え方や活用法を変えたりする」ことこそイノベーション
    - 普通に存在する技術をどう活用するかも重要
- IoT のメリット
  - ・IoT 鳩時計、OQTA HATO の認知症ケアへの導入
    - 用事がなくてもアウトプットができる
    - 受ける側は自由に解釈できる
    - 鳩が鳴くことで患者が家族に思われていることが分かる
- 介護の課題
  - ・他の業界で普通にやっていることができていない
  - ・IT ツール利用へのレベルがまだ低い現状である
  - ・介護の需要ギャップをどう埋めるか
    - スタッフ一人があれもこれも何でもやるという働き方からプロフェSSIONALが担うべき役割を明確にする必要がある
    - 人だけでなく、ロボットも AI も使い、分業で労働の集約を防ぐ
    - 現状の働き方を変えないといけないため、働き方改革を議論する必要がある
  - ・医療の場合大量の書類を作成する
    - 同じ記録を何度も記録する作業をしている
    - 医療に限った話ではなく、他の業界とも共通の課題である
- 違う業界から学ぶには
  - ・民間企業でやっている最先端の働き方改革を学ぶ
    - 電子化できることを探す
    - この仕事は必要か考える必要
    - 本来の仕事をするためのツールを導入

### ○サービス領域の取り組みの拡大

- ・労働環境を整える
  - 代替ではなく役割分担を目指す
  - 効率化によってできた時間を、いかに人と人の触れあいの時間に回せるかを考える
- ・キーワードは、「地域包括ケア」と「リハビリテーション」
  - ICT の活用シーンが今まで以上に増える
  - コミュニケーションをより効率的かつ伝わりやすい ICT が重要になってくる
- ・科学的裏付けに基づく介護
  - 科学的裏付けの蓄積を目的とする

ソーシャルホスピタル実現のため、社会の中の全員が医療・介護の参加者になり、介護業界に新たな風を吹き込んでいくことにも期待したい。

### 3 【特別講演】「介護・福祉業界における課題と IT 利活用の可能性」



一般社団法人「民間事業者の質を高める」全国介護事業者協議会 理事長 佐藤 優治

#### ○介護・福祉の課題

- ・社会保障費を抑えるための介護等の給付抑制
  - 財源を削る分野について議論があるが、慎重を求められる
- ・人材の需給ギャップ
  - 介護人材に対し利用者が過多の状況であり、これからより深刻になる
- ・都市部での高齢者増加
  - 政令指定都市に限らず、地方の中核市にも及ぶ
- ・新たな交付金の設立
  - 介護認定率を下げ、健康な高齢者を増やすことでインセンティブを確保する
  - 地域による包括ケアがより重要になるが、人材不足が否めない
  - 従来の介護報酬と比較し、報酬が得辛い
  - 地域格差の温床になる懸念も

#### ○介護政策に対する対応

- ・現状の延長線上において、顕在化する問題
- ・介護人材の確保のため、外国人労働力も視野に入れていかなければならない
- ・地域特性を生かしたサービスの拡大も必要になってくる

#### ○IT 利活用の可能性

- ・自立支援への効果
  - 介護の質を高め、サービスを効率化する
  - IT 導入によって高まった介護成果に対して報酬を反映する制度が実施

- ・ AI の活用
  - ケアプランの自動作成
  - ケアマネージャーがコーディネーター力を発揮すべき事例
  - 地域ごとの課題を取り入れたものにするため、今まで以上にケアマネージャーが必要
- ・ 介護ロボット
  - 導入費用が高額で保険的用外
  - 補正予算で導入に対する補助がある

IT 技術による期待も大きいですが、補助による導入整備について、行政には期待している。介護・福祉業界も、行政と話し合うことが大切である。

#### 4 【介護・福祉を支える IT 利活用事例のご紹介】

##### ① 「IT を活用した訪問介護の事例紹介」



SOMPO ケア株式会社 北海道事業部 6 エリア SV 兼地域支援課営業課長 田村 友明

##### ○導入の目的

- ・ 一体的な管理（介護・医療）をすることにより事務負荷軽減を図る
  - 介護保険・医療保険と請求実績の入力・管理など一体的に管理可能に
- ・ 紙管理からシステム管理へ転換し、事務作業の負担を減らす
  - タブレット端末での入力が可能なので、現場での事務作業が可能に
  - 入力したものはデータ化されるので、様々な集計・分析結果も出力可能

##### ○導入に当たり

- ・ 導入前に「訪問看護システム導入準備チェック」をスタッフに実施
  - 社内の IT リテラシーを事前に高めることで、IT 導入に対する抵抗感を低減
- ・ その場で記録ができるので、帰ってきてからの作業が簡略化される
- ・ スタッフが現場から記録を見て対応ができ、カルテなしで情報が得られる
- ・ 他の職員との情報共有で動画や写真が見られる
- ・ 稼働と稼働の間で、記録の処理等できるので効率的

##### ○課題

- ・ 年配のスタッフには、スムーズに使用できないケースがある
- ・ 電波が悪く、繋がりにくい場所では使用が制限される
- ・ 充電環境がないところでは、使用できない可能性がある

今後も、導入した IT ツールのモニタリングは必要である。一定の成果は出ているので、労務費を削るツールとしてこれからも使用していきたい。

## ○「タブレットとクラウドを活用した高齢者見守りソリューション事例紹介」



株式会社ネクシス 執行役員 浅井 孝文

### ○IT を独居高齢世帯の見守りとして活用

- ・ 見守る側の思い
  - 独居高齢世帯は生活状況を把握したいが、難しい
  - 見守る環境をどう整えて良いかわからない
  - センサー、カメラを使わずに、実現できないか
- ・ 高齢者の思い
  - 介護はまだ必要ない、監視されたくないという拒否感
- ・ 簡単な仕組みで様子がわかると安心

### ○タブレット端末の導入

- ・ タブレット端末のメリット
  - 操作が容易である
  - カメラなどで“監視されている”という圧迫感がない
  - 生活道具として自発的に利用しやすい

### ○製品としての特長

- ・ タブレットを使用するため、設置・撤去が簡単
- ・ 簡易的な地域防災の仕組みを取り入れる
  - 高齢者の異変を察知し、連絡が必要な高齢者をピックアップできる

### ○導入効果

- ・ 高齢者の状態を把握できる
  - 孤独死の早期発見、体調を崩した高齢者の把握
  - 簡易的な操作なので、高齢者でも毎日使えて愛着がわく

### ○課題

- ・ サービスメニューの多様化が必要
  - 地域に対応したサービスメニューを用意し、地元独自のコミュニケーションを構築
- ・ ターゲット層を広げ地域コミュニケーションツールとして構築・運用を実現
- ・ ハードウェアに依存しないシステム作り
  - タブレット機種・OSに偏らず、スマホ対応にする
  - 機器の寿命を加味する

IT 機器の導入時、財政負担も課題になっている。これは民間・行政ともに課題であり、ソフト開発の立場として、導入コスト低減ができる機器開発を目指していく。



<事務局より今後の予定>

- ・12/14 札幌市IoTイノベーション推進コンソーシアム第2回札幌市ICT活用普及促進部会  
(テーマ:金融EDI、電子決済)
- ・1/30 第10回札幌イノベーションセミナー(テーマ:食)

【セミナーの様様】



ご多忙の折、多数の皆様にご参加いただき、誠にありがとうございました。

以上